

New Horizon 第 19 回 Lessons

Lesson 19-1: 一般動詞の過去形：肯定文&不規則動詞（第 10 回の復習）

もうすでに一般動詞の過去形の肯定文と不規則動詞については学んだのですが、確認のため簡単に復習を行っていきましょう。

【一般動詞の過去形 肯定文：基本の形】

主語 + 一般動詞の過去形 (+目的語) (+～) .
(「主語」は「動詞」をしました)

【一般動詞を過去形にする方法】

<パターン 1：一般的な動詞（今回練習） = 一般動詞の最後を ed の形にする>

1. **ed を足す場合** = 多くの一般動詞（単語の最後が「子音+y」の場合、**y→i** にして ed）

<例> We **played** soccer. (私たちは、サッカーを**しました**)

He **studied** English with me. (彼は、私と英語を勉強**しました**)

*study は、最後が「子音+y」なので、**studied** となる。

2. **d を足す場合** = 一般動詞の最後が e で終わる

<例> She **liked** her new office. (彼女は、彼女の新しいオフィスが**好きでした**)

They **used** this room. (彼らは、この部屋を**使いました**)

<パターン 2：不規則動詞 = 独自の過去形の形を持っている>

<例> I **ate** a hamburger yesterday. (昨日、私はハンバーガーを**食べました**)

*食べた = ate (eaten = **+**)

【その他の不規則動詞の例】

意味	原形	過去形
食べる	eat	ate
行く	go	went
する	do	did
書く	write	wrote
持っている	have	had
手に入れる	¹ get	got
見つける	find	found
持ってくる	bring	brought
読む	read	² read

意味	原形	過去形
作る	make	made
走る	run	ran
買う	buy	bought
見る	see	saw
来る	come	came
泳ぐ	swim	swam
言う	say	said
勝つ	win	won
置く	put	put

【一般動詞の過去形の肯定文：作り方】

ステップ 1：現在形の肯定文を作る。

ステップ 2：動詞を過去形に変える。

<例 1：私たちはサッカーをしました>

ステップ 1：現在形の肯定文を作る。 → 私たちはサッカーをします。

We play soccer.

ステップ 2：動詞を過去形に変える。

We played soccer.

<例 2：彼は札幌に行きました>

ステップ 1：現在形の肯定文を作る。 → 彼は札幌に行きます。

He goes to Sapporo.

ステップ 2：動詞を過去形に変える。

He went to Sapporo.

【ポイント！】

1. want to ～の過去形

「～したかった」といった、**want to** ～ を過去形にする場合、**want** だけを過去形にし、**to** の後の動詞は過去形にしないので注意。

<例> She wanted to use this. (彼女はこれを 使いたいと思っていました)

《She wanted to used this. =×》

2. enjoy ~ing / like ~ing の過去形

「～をするのを楽しんだ」「～するのが好きだった」といった、**enjoy ~ing / like ~ing** を過去形にする場合、**enjoy / like** だけを過去形にし、**~ing** はそのままとなるので注意。

<例> We enjoyed playing soccer. (私たちはサッカーをするのを楽しみました)

《We enjoyed played soccer. =×》

3. 過去形の文によく登場する yesterday / last ～ といった副詞 (句)

yesterday (昨日) は、today と同じように、また last ～ (前回の～ / 最後の～) は、every ～と同じように、前置詞を置かず文章の最後に置かれる形でよく使われる。

<例> I played soccer yesterday. (私は昨日サッカーをしました)

<I played soccer on yesterday. = ×>

We used it last Monday. (私たちは、それを前回の月曜日に使いました)

<We used it on last Monday. = ×>

Lesson 19-2 : 様々なフレーズ②⑤

1. get up = 起きる / 起床する

<例> I usually get up at 7:00. <私はたいてい7時に起床します>

2. winter vacation / summer vacation = 冬休み / 夏休み

<例> I was in Hawaii during winter vacation. <私は冬休みの間、ハワイにいました>

〔補足説明〕

vacation は「長期休暇」という意味。一番最近の冬休み・夏休みであれば、限定されていても the をつけないで使われることが多い（ただし、the をつけても間違いではない）。

<例> I was in Hawaii during (the) winter vacation.

(文脈上、一番最近の冬休みと分かっても、winter vacation には the をつけないでよい)

3. for ~ = ~の間 (ずっと)

<例> I stayed in Australia for a week. <私はオーストラリアに1週間滞在しました>

〔補足説明〕

この期間を表す for は、口語では省略されることもある。

<例> I stayed in Australia a week. <私はオーストラリアに1週間滞在しました>

また「時間がかかる」という意味の take を使う場合、for はつかないので注意。

<例> A: How long did it take? <どれくらい長くかかりましたか>

B: *It took two hours. <2時間かかりました> (It took for two hours. = ×)

*時間の長さを言う場合、基本的に主語は it が用いられる。

4. clean (up) = 掃除する / きれいにする

<例> I am cleaning my room. <私は、私の部屋を掃除しています>

〔補足説明〕

よく clean up と up が足されることがある。clean と clean up は同じような使われ方がするが、clean は、ただ「きれいにする」という意味なのに対し clean up は「ある程度完全にきれいにする」という意味が含まれることがある。

5. on the afternoon of ○○ = ○○の午後

*○○=日にち

<例> I was busy on the afternoon of December 10. <私は 12月10日の午後は忙しかったです>

【補足説明】

afternoon だけでなく、morning や evening を入れることも可能。一般的に「午前」「午後に」「夜に」という場合、in the morning / in the afternoon / in the evening と、前置詞に in が使われるが、今回は on になるので注意。

6. ○○ and I = ○○と私

<例> My family and I went to Shizuoka. <私の家族と私は、静岡に行きました>

【補足説明】

「誰かと私」という場合、通常 I は後に来る。そのため、I and ○○ という表現 (例: I and my family went to Shizuoka.) は、基本的に使われないので注意。

7. spend the night = (その日の) 夜を過ごす / 一泊する

<例> We went to London and spent the night there.

<私たちはロンドンに行き、そこで一泊しました>

【補足説明】

「夜を過ごす」という場合、「その日の夜」など、どの夜なのか限定されていることが多いため spend the night と the が使われることが多いが、spend a night という表現もある。

Lesson 19-3 : 一般動詞の過去形 否定文

一般動詞の過去形の否定文は、一般動詞の現在形の否定文が理解できていれば簡単です。なぜなら、現在形の do not (don't) や does not (doesn't) のところに、did not (didn't) を足してあげれば完成だからです (not のあとに続く一般動詞は、原形になるので注意してください)。

【一般動詞の過去形 否定文：基本の形】

主語 + did not (didn't) + 一般動詞の原形 + ~.

(主語は～ませんでした)

<例> I did not (didn't) go to school yesterday. (私は昨日学校に行きませんでした)

She did not (didn't) like this. (彼女はこれが好きではありませんでした)

【作り方】

ステップ1：一般動詞の過去形の**肯定文**を作る。

ステップ2：一般動詞の前に **did not (didn't)** を足す。

ステップ3：一般動詞を**原形**に戻す。

<例1：私は昨日学校に行きませんでした>

ステップ1：一般動詞の過去形の肯定文を作る。→ 「私は昨日学校に行きました」

I went to school yesterday.

ステップ2：一般動詞の前に did not (didn't) を足す。

I did not (didn't) went to school yesterday.

ステップ3：一般動詞を原形に戻す。

I did not (didn't) go to school yesterday.

<例2：彼女はこれが好きではありませんでした>

ステップ1：一般動詞の過去形の肯定文を作る。→ 「彼女はこれが好きでした」

She liked this.

ステップ2：一般動詞の前に did not (didn't) を足す。

She did not (didn't) liked this.

ステップ3：一般動詞を原形に戻す。

She did not (didn't) like this.

Lesson 19-4：様々なフレーズ②

1. full of ○○ = ○○でいっぱい / ○○に満ちている

<例> This place is full of people. <この場所は、人でいっぱいです>

〔補足説明〕

○○に可算名詞が入る場合、主に複数形が用いられる。日本語でいう「テンションが高い / ハイテンション」というのは、和製英語。英語では full of energy (エネルギーに満ち溢れている) という。

2. leading ○○ = 先導する○○ / 一流の○○ / (演技などで) 主演の○○

<例> It is a leading company in Japan. <それは、日本で一流の会社>

〔補足説明〕

leading のように「動詞 ing」の形にすることで「～する」「～している」という意味の形容詞として使うことができる。

<例> That sleeping baby is cute. (あの眠っている赤ちゃんはかわいいです)

3. we all ○○ = 私たち全員○○する

they all ○○ = 彼(女)ら全員○○する / それら全部○○する (○○には、一般動詞が入る)

<例> We all need some water. <私たち全員、いくらかの水が必要です>

〔補足説明〕

be 動詞の文で「私たち全員」「彼ら全員」と言いたい場合は、代名詞+be 動詞+ all の形になるので注意。

<例> We are all tired. <私たち全員疲れています>

また、we / they といった人称代名詞以外に all が付く場合は、all ○○ / all of the ○○ といった形が主に使われる。

<例> All children were happy. <すべての子どもたちは、幸せでした>

All of the computers are old. <すべてのパソコンは、古いです>

4. at midnight = 夜中に

<例> We left the restaurant at midnight. <私たちは夜中にレストランを去りました>

〔補足説明〕

夜中という場合は、in the ○○ の形ではなく、at midnight となるので、注意。また、文頭で使われる At midnight, ~. の形もよく使われる。

<例> At midnight, we left the restaurant. <私たちは夜中にレストランを去りました>

5. each other = お互い(に・を)

<例> Sari and Kenta helped each other. <サリとケンタはお互い助け合いました>

〔補足説明〕

each other は「1つの代名詞」として考えると理解しやすい(ただし主語にはならないので注意)。例えば、以下の文では、to をよく忘れてしまう場合がある。

They talked to each other. (They talked each other. = ×)

<彼らはお互い話し合った>

この際、each other の代わりに him などの代名詞を入れてみると They talked him. とは言えず、They talked to him. と to が入るのが分かるので、each other でも to が必要なのが理解できる。

6. ~ ago = ~の前に

<例> They came here 10 minutes ago. <彼らは、10分前にここに来ました>

【補足説明】

ago は、「期間+ago」の形で使われる。また、ago と before の違いは「ago=現在から～前に」「before = ある時点から～前に」となる。

<例> We finished this an hour ago. (私たちは、それを1時間前に終わらせました)

We finished this before the meeting. (私たちは、それを会議の前に終わらせました)

7. take part in ~ = ~に参加する

<例> I took part in the meeting. <私は会議に参加しました>

Lesson 19-5 : 一般動詞の過去形の疑問文

一般動詞の過去形の疑問文は、現在形の疑問文と形が似ています。なぜなら、

Do / Does の代わりに Did を使うだけだから

です。つまり、基本の形は以下ようになります。

【一般動詞の過去形 疑問文：基本の形】

Did + 主語 + 一般動詞の原形 + ~?

(「主語」は～しましたか)

<例> Did you have a test? (あなたはテストがあったのですか)

Did Asako come here last week? (アサコは先週ここに来たのですか)

【作り方】

ステップ1：一般動詞の過去形の**肯定文**を作る。

ステップ2：文の先頭に **Did** を足し、最後を**?**にする。

ステップ3：一般動詞を**原形**に戻す。

<例1：あなたはテストがあったのですか>

ステップ1：一般動詞の過去形の肯定文を作る。→ 「あなたはテストがありました」

You had a test yesterday.

ステップ2：文の先頭に **Did** を足し、最後を**?**にする。

Did you had a test yesterday?

ステップ3：一般動詞を原形に戻す。

Did you **have** a test yesterday?

<例 2 : アサコは先週ここに来たのですか>

1. 一般動詞の過去形の肯定文を作る。→ 「アサコは先週ここに来ました」

Asako came here last week.

2. 文の先頭に Did を足し、最後を?にする。

Did Asako come here last week?

3. 一般動詞を原形に戻す。

Did Asako come here last week?

【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の 2 種類。

Yes, 代名詞 did.

No, 代名詞 *didn't.

*didn't 使うのが一般的だが、did not と分けることも可。

Did ~? でなので、did で答える。

do / does で答えないように注意。

<例> Did you have a test?

Yes, I do. =×

<例 1> Did you have a test? (あなたはテストがあったのですか)

はい → Yes, I did.

いいえ → No, I didn't. (No, I did not.)

<例 2> Did Asako come here last week? (アサコは先週ここに来たのですか)

はい → Yes, she did.

いいえ → No, she didn't. (No, she did not.)

そして where / when などの「疑問詞」を一般動詞の過去形の文に足す方法は、現在形の時同様

疑問詞を疑問文の前に足してあげるだけ

です。つまり、基本的な形に以下ようになります。

【疑問詞＋一般動詞の過去形の疑問文：基本の形】

疑問詞 + did + *主語 + 一般動詞の原形 + ~?

*主語をたずねる疑問文の場合は「主語」の部分はなくなる

<例> Where did you go yesterday? — I went to Ueno Zoo.

(あなたは昨日どこに行きましたか — 私は上野動物園に行きました)

When did he go to America? — He went to America last month.

(彼はいつアメリカに行きましたか — 彼は、先月アメリカに行きました)

Who came to the party? — Yoshiko did. 【主語をたずねる疑問文】

(誰がパーティーに来たのですか — ヨシコです)

【作り方】

ステップ1：疑問詞の部分（何、いつ、など）に同じ種類の“**適当な単語**”を入れて**疑問文**を作る（主語をたずねる疑問文の場合は、**肯定文**を作る）。

ステップ2：入れた“適当な単語”を「**疑問詞**」に戻す（主語をたずねる疑問文の場合は、更に文の最後を“?”にして終了）。

ステップ3：疑問詞を**文頭**に持ってくる。

<例1：あなたは昨日どこに行ったのですか>

ステップ1：疑問詞の部分（何、いつ、など）に同じ種類の“適当な単語”を入れて疑問文を作る。→
「あなたは昨日**あの博物館**に行ったのですか」

Did you go to that museum yesterday?

ステップ2：入れた“適当な単語”を「疑問詞」に戻す。

Did you go **where** yesterday?

ステップ3：疑問詞を文頭に持ってくる。

Where did you go yesterday?

<例2：誰がパーティーに来たのですか> 【主語をたずねる疑問文】

ステップ1：疑問詞の部分（何、いつ、など）に同じ種類の“適当な単語”を入れて**肯定文**を作る。→
「**ヨシコ**がパーティーに来ました」

Yoshiko came to the party.

ステップ2：入れた“適当な単語”を「疑問詞」に戻す。（そして文の最後を? にする）

Who came to the party?

【ポイント！】

What happened (to ~)? の形

What happen (to ~)? を過去形にした **What happened (to ~)?** の形は「(～に) 何が起きたの?」「どうしたの?」という意味で、事故や問題が起きた時によく使われる。

<例> My head hurts. — Really? **What happened?** (頭が痛いです。— 本当に? どうしたの?)

What happened to this machine? (この機械に何が起きたの?)

Lesson 19-6 : 様々なフレーズ②

1. the day before yesterday = 一昨日 (に・で)

<例> I talked to him the day before yesterday. <私は、一昨日彼と話しました>

〔補足説明〕

the day before yesterday は、厳密には「昨日の前の日」という意味になる。ただし、副詞句のように使われることが多く、on the day before yesterday となることはあまりない。

2. New Year's Day = 元旦

<例> What did you do on New Year's Day? <あなたは元旦に何をしましたか>

〔補足説明〕

New Year's Day は、1つの固有名詞として考えると理解しやすい。また「新年の○○ (例：日本の新年の食べ物)」という場合は New Year's ○○ (例：Japanese New Year's Food) となるので注意。

「新年」という意味の the New Year (the がつくのがポイント) は、基本的に12月31日と1月1日の2日や、新年の最初の週を指す。

<例> I was in Okinawa during the New Year. (私は、新年の間は沖縄にいました)

3. nothing special = 何も特別に / 特に何も

<例> We did nothing special yesterday. <私たちは、昨日特に何もませんでした>

〔補足説明〕

nothing (何も) だけでなく、something (何か) や anyone (誰でも) のように no○○/some○○ / any○○ といった単語に形容詞がつく場合、単語の後ろに足されるので注意 (他の名詞であれば「形容詞+名詞」の順番になるが、no○○/some○○ / any○○ といった単語の場合「no○○/some○○ / any○○ + 形容詞」の順番になる)。

<例> I want to read an interesting book. (形容詞+名詞)

<私は興味深い本を読みたいです>

I want to read something interesting. (something + 形容詞)

<私は興味深い何かを読みたいです>

4. anywhere = (肯定文) どこにでも / どこへも
 = (否定文) どこにも～ない / どこへも～ない
 = (疑問文) どこかに / どこかへ

<例> You can go anywhere. <あなたはどこにでも行くことができます>
 I didn't go anywhere yesterday. <私は、昨日どこにも行きませんでした>
 Do you want to go anywhere? <あなたはどこかへ行きたいですか>

〔補足説明〕

(any や anything / anyone といった any〇〇同様) 肯定文、否定文、疑問文で意味が異なるので注意。

5. at home = 自宅に / 自宅で

<例> I am at home now. <私は今、自宅です>

〔補足説明〕

ここでは、home は「自宅 (名詞)」という意味で使われている。しかし、英語で「(帰宅した際に言う) ただいま」は、I'm home. と言い、これは「(自宅に) 帰ってきている」という (形容詞のような) 副詞となる。また、house と home の違いは、house は「一軒家 (アパートやマンションではない)」なのに対し、home は「自宅 (アパート・テント・船でもいい)」となる。

また「家にとどまる」という場合、stay home と stay at home の両方を使うことができる (stay home の場合、home は副詞として使われ、stay at home の場合、home は名詞として使われる)。

6. for the first time = 初めて

<例> I went to Ehime for the first time. <私は初めて愛媛に行きました>

Lesson 19-7 : 様々なフレーズ⑳

1. fall down = 転ぶ

<例> He fell down and broke his arm. <彼は転び腕を折りました>

〔補足説明〕

fall だけでも「転ぶ」という意味を表すことができる。また、fall には「落下する」(例: 「木から葉っぱが落ちる」など) という意味もある。

<例> The leaves fell from the tree. <葉っぱが木から落ちました>

2. a lot = たくさん (副詞句)

<例> She always eats a lot. <彼女はいつもたくさん食べます>

〔補足説明〕

a lot は「動詞を説明する副詞句」で「たくさん」という意味。一方で a lot of は「(manyのように使われる) 名詞を説明する形容詞句」で「たくさんの」という意味なので注意 (ofは、前置詞なので「前置詞の後には名詞がくる」と考えると覚えやすい)。

<例> She always eats a lot. (彼女はいつもたくさん食べます)
She always eats a lot of vegetables. (彼女はいつもたくさんの野菜を食べます)

3. outside = 外側 / 外側に / 外に / 外の

<例> We can't go outside now. <私たちは、今は外に行くことはできません>

〔補足説明〕

outside は、副詞としてよく使われ、at / in などの前置詞がつかないことが多いので注意。

<例> Look outside! It is *snowing. (Look at outside. = ×)
<外を見て。雪が降っています>
*snow は「雪」という意味だけでなく「雪が降る (動詞)」という意味もある。同様に rain も「雨」という意味だけでなく「雨が降る (動詞)」という意味もある。

4. take care of △△ = △△の世話をする / △△の面倒を見る

<例> I need to take care of my dog. <私は、私の犬の世話をする必要があります>

〔補足説明〕

△△のところに yourself (あなた自身) という単語を入れ、Take care of yourself とすることで「(病院などで言われる) お大事に」「ご自愛ください」「お体には気を付けて」という別れの挨拶や、ただの「じゃあね」という意味で使うことができる (take care of yourself の直訳は「あなた自身の世話をする」「あなた自身の面倒を見る」となる)。また、Take care だけ使われることもある。

<例> A: See you next week. B: OK. Take care (of yourself).
<A: 来週ね。 B: OK. じゃあね >

5. hope to ○○ = ○○することを望む

<例> I hope to see you soon. <私はあなたにすぐに会えることを望みます>

【補足説明】

want to ○○ (○○したい) や need to ○○ (○○する必要がある) といった形のように
○○には、動詞の原形 (元の形・辞書で調べる形) が入る。

6. keep in touch (with ○○) = (○○と) 連絡を取り合う

<例> Let's keep in touch with each other. <お互い連絡を取り合ってください>

【補足説明】

touch は「触る」という一般動詞としてよく使われ、keep in touch は、手紙の最後や別れの挨拶などによく使われる。また、keep in touch とほとんど同じ意味で stay in touch (stay = とどまる) というフレーズもよく使われる。

<例> Let's keep in touch. <連絡を取り合ってください>

Let's stay in touch. <連絡を取り合ってください>